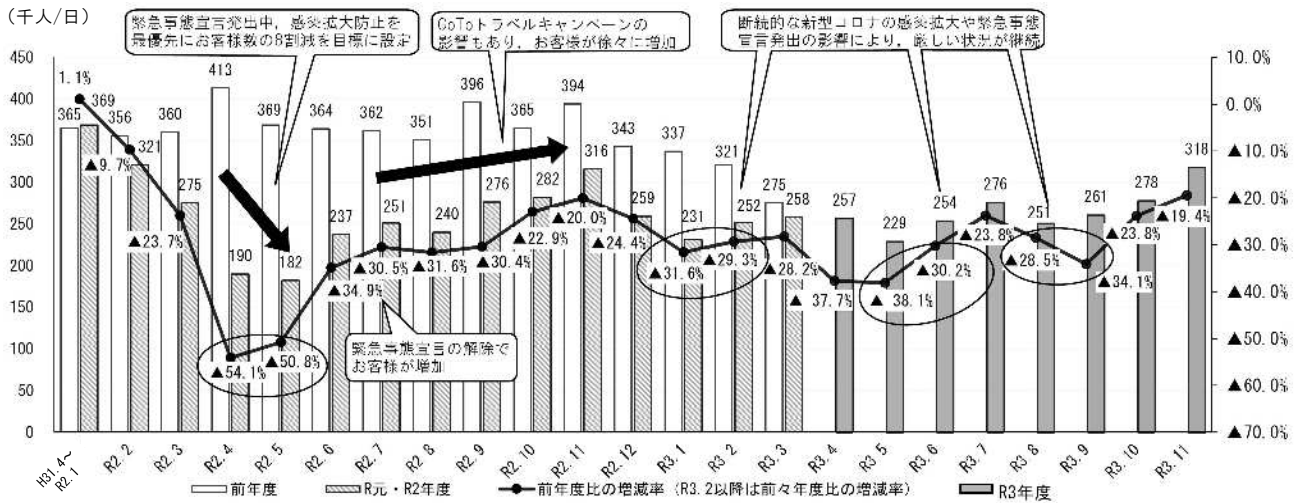


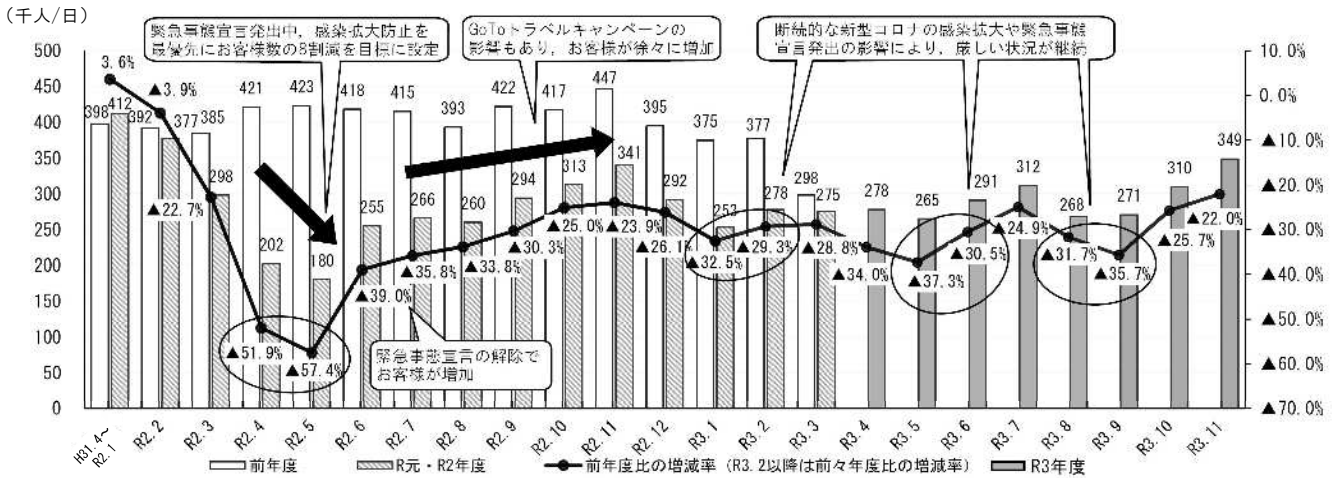
■ お客様数及び運賃収入への影響

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年2月以降お客様数が大幅に減少し、令和3年度に入っても大幅な減少が続いています。
- 令和2年度は前年度と比べ、1日当たりのお客様数は市バス事業で10.9万人の減少、地下鉄事業で13.3万人の減少。運賃収入は市バス事業で61億円の減収、地下鉄事業で88億円の減収となり、両事業の経営に甚大な影響を及ぼしています。
- また、お客様数の大幅な減少に伴い、令和2年度の市バス各系統の営業成績を表す「営業係数」※については、82系統全てが赤字となりました。
※ 100円の収入を得るために要した費用を示す指標であり、100未満であれば黒字系統、100を超えれば赤字系統であることを示す
- さらに、広告料収入、駅ナカビジネス収入も、コロナ禍の社会情勢の変化の影響を受け、収入が大きく減少しています。

市バス事業 新型コロナウイルス発生以降の1日当たりのお客様数の推移

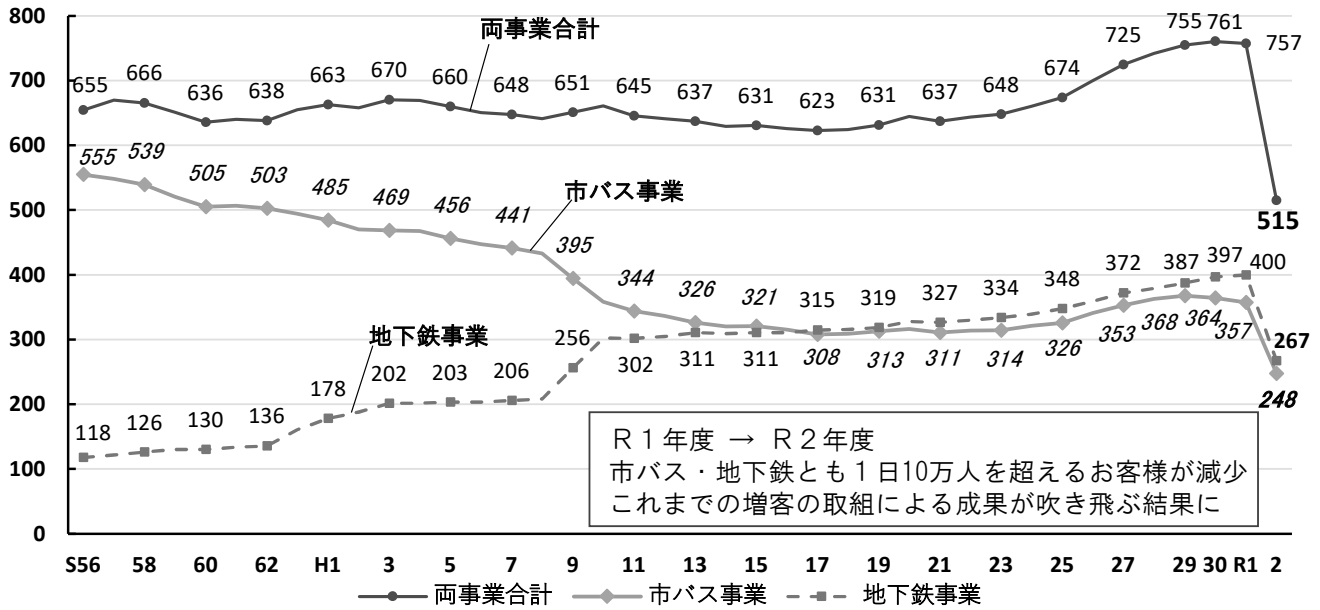


地下鉄事業 新型コロナウイルス発生以降の1日当たりのお客様数の推移



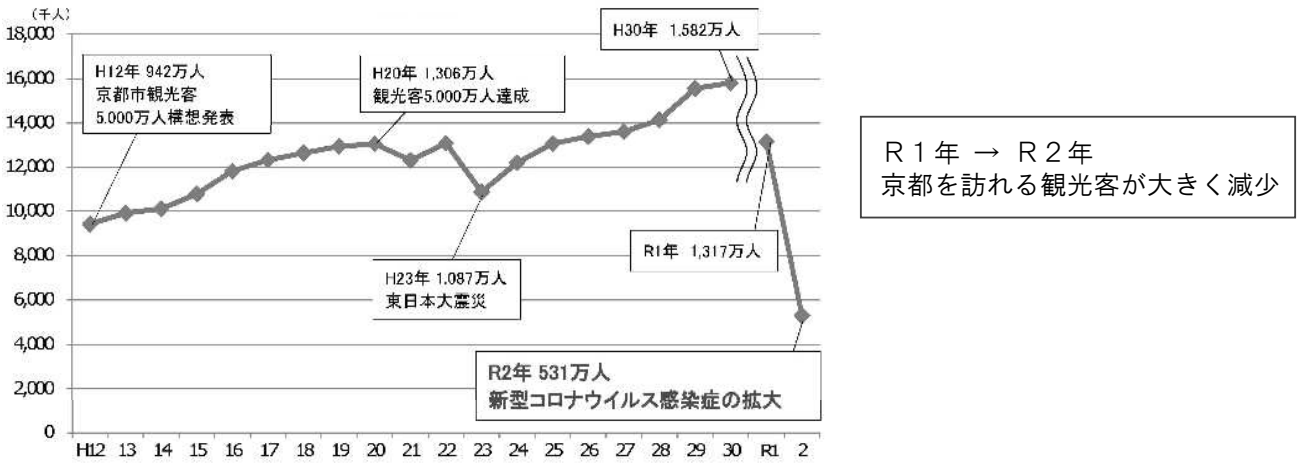
(千人/日)

1日当たりのお客様数の推移（事業別）

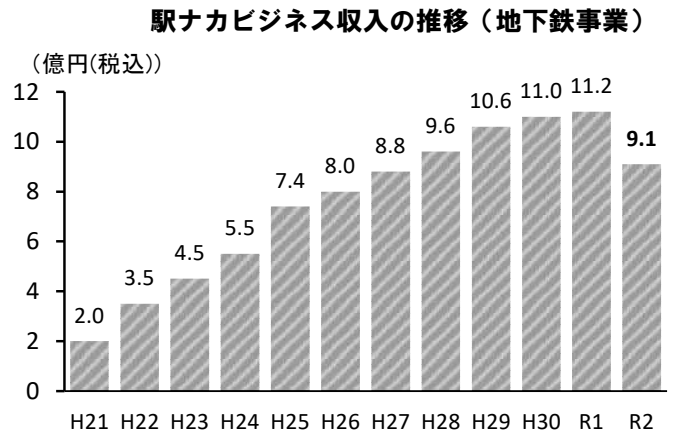
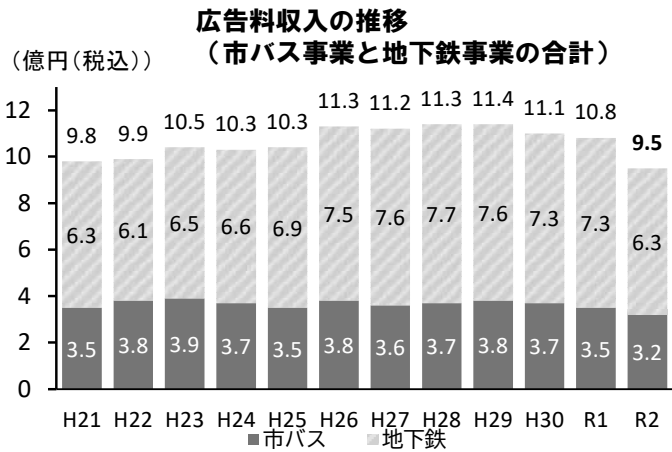
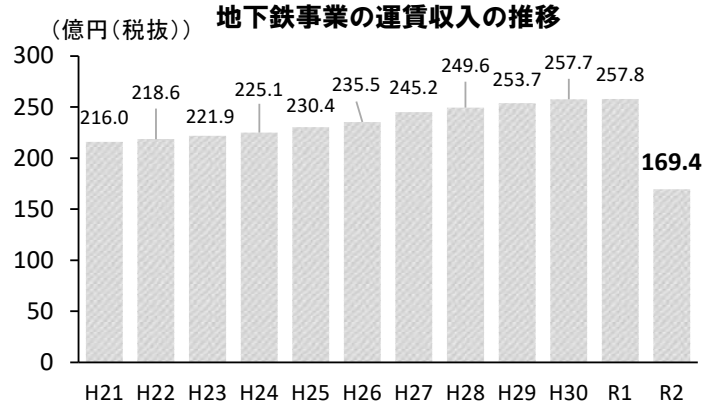
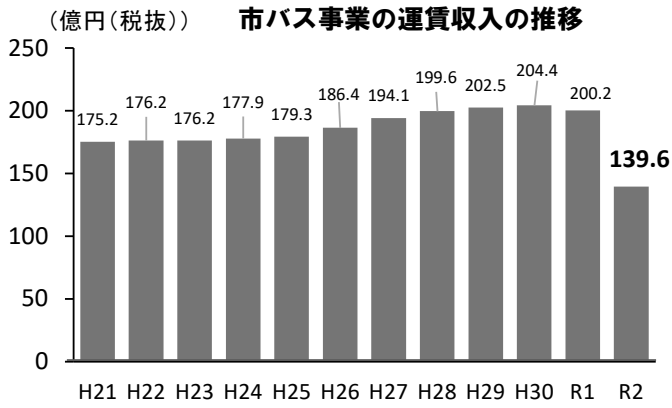


※ S56年度の地下鉄事業は営業日数（307日）の1日平均であり、両事業合計は年（365日）の1日平均である
 ※ 端数調整により合計値が一致しない場合がある

京都市内年間宿泊者数の推移

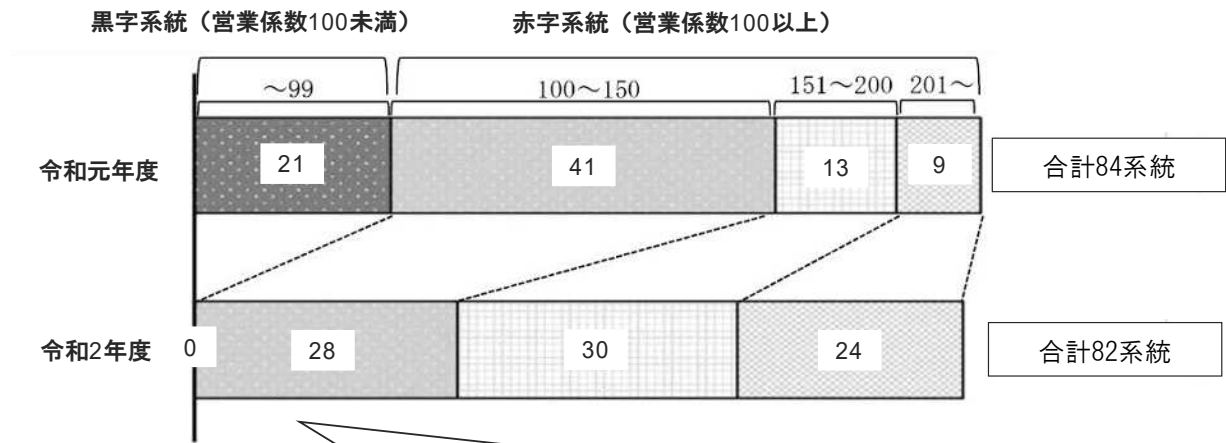


※ 調査手法の変更により、令和元年以降の数値は平成30年までの数値と時系列による単純比較はできない
 「観光客の動向等に係る調査」 令和2年(2020年)/京都市産業観光局 より



※ 端数調整により合計額が一致しない場合がある

市バス各系統の営業係数 ※



令和元年度は、21の黒字系統が、63の赤字系統を支えていましたが、令和2年度は、黒字系統は無くなり、全ての系統が赤字となりました。

※ 100円の収入を得るために要した費用を示す指標であり、100未満であれば黒字系統、100を超えれば赤字系統であることを示す